令和7(2025)年度アクティブ・ラーニングプログラム一覧(春学期開始)

2025年4月22日
教務課

活動学期:春学期

No.	プログラム名	カテゴリ	プログラムの概要	単位認定基準	担当教員	認定単位数	対象・募集人数	プログラムへの参加方法
1	統計モデル入門	ICT	本プログラムは，統計モデル入門ということで回帰モデルから一般化線形モデルまでを対象とした座学で学ぶプログラムである。一般化線形モデルの当てはめという視点で各種手法に関する推定・検定を統一的に学ぶ。これまで，データサイエンスIからIVまでで別々の方法として学修した統計手法が一般化線形モデルの当てはめにより同じ原理で説明できることを学修でき，統計理論に関する理解を深めることとなるであろう。なお，本プログラムは統計検定準1級のレベル内容の一部を学修できるプログラムである。(ただし、検定の合否は単位認定には関係しない。) テキストは「An introduction to generalized linear models / by Annette J. Dobson and Adrian G. Barnett」(和訳本:一般化線形モデル入門 / by Annette J.Dobson and Adrian G. Barnett, 翻訳:田中 豊 他)を用いる。 説明会を4月11日(金)昼休み(12:15-12:45)図書館セミナールームにて行う。 なお，下記，第2講～第13講までの予定については，前後することがある。 また，フランス人の留学生(インターンシップ生)も参加予定のため，本プログラムでの使用言語は「英語」にて実施する。	【認定基準】 毎回課題を提出すること(授業(前後を含む)2時間×15回，および上記の事前・事後学修3時間×15回)，加えて最終課題を指定日までに提出すること。最終課題については，第14回目頃までにアナウンスする。	久保田　貴文	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 10名	説明会を4月11日(金)1限目および同日昼休(12:15-12:45)に、どちらも図書館セミナールームにおいて行う。どちらかに参加すること。もしくは、第2講までに直接久保田まで連絡し、説明を受けること。
2	統計検定3級	ICT	本プログラムでは，一般財団法人である統計室保証推進協会が認定している「統計検定」の中の1つの資格である「統計検定3級」の資格を取得すべく，その基礎固めとなる統計的内容について座学で学修するプログラムである。想定する受講生は，統計検定3級取得者を目指す者であるが,座学型のALであるため，資格合格の可否にかかわらず，15回の講義および最終レポートにより単位を認定する予定である。 説明会を4月15日(火)昼休み(12:15-12:45)223教室にて行う。 テキストは「日本統計学会公式認定　統計検定　3級・4級　公式問題集(CBT対応版)」を用いる。 なお，下記，第2講～第13講までの予定については，前後することがある。	【認定基準】 毎回課題を提出すること(授業(前後を含む)2時間×15回，および上記の事前・事後学修3時間×15回)，加えて最終課題を指定日までに提出すること。最終課題については，第14回目頃までにアナウンスする。	久保田　貴文	2	【対象】 2～4年次 【募集人数】 20名	説明会を4月15日(火)1限目および同日昼休(12:15-12:45)に、どちらも223教室において行う。どちらかに参加すること。もしくは、第2講までに直接久保田まで連絡し、説明を受けること。
3	CGクリエイション	ICT	3DCGを自由に使いこなせるよう、目標を定め、発表できるまでにする。 基本的に週1回1コマ	【認定基準】 1)週1回の集合時に学習意欲をもって参加していた。 2)事前・事後学修を含み、与えられたテーマをこなし、成果を出した。 3)本講義の目的を理解し、到達目標に至ることができた。 上記の内容を含め、十分な成果が認められた場合、単位を認定する。 〇評価配分 週1回の集合時にテーマに沿って設定した自分の課題を(事前事後学修成果を含めて)よくこなしている(30%)、積極的発言など(20%)、最終成果への貢献(50%)	新西　誠人 菅沼　睦 出原　至道 他ICT関連教員数名	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 設定しない(最大30名程度が理想)	説明会を4月10日(木)4限、211教室にて行うので参加すること。もしくは、第2講までに、新西まで連絡し、説明を受けること。
4	世代継承プログラム_春	地域研究	本学は2017年度～2019年度にかけて研究ブランディング採択事業として「大都市郊外型高齢化に立ち向かう実践的研究」に取り組んできた。採択期間終了後においても、地域社会に寄与する大学として継続してジェロントロジー(高齢化社会工学)に取り組んでいる。その活動の一環として「地域住民のコミュニティの場を大学が提供する」とともに「多摩地域に数多く存在する既に退職した日本の高度経済成長を牽引した高齢者の活力を、学生世代の若者に継承する」ことを行う。 本プログラムでは、プログラムに参加する学生が、本学が開講する公開講座(リレー講座)を聴講する高齢者の交流の場(サロン)を設けるとともに、その交流の中に学生自身が参加して高齢者からの活力の継承を受ける。また、高齢者のこれまでの人生の軌跡や遺したい想いデータとして蓄積する。 本プログラムは2018年度より継続していたが、グループによる近距離での会話を前提とするため、2020年度以降はコロナ感染防止の観点から開催を見送っていた。これを2025年度より復活させるものである。	【認定基準】 1)リレー講座後(木曜5時限)にT-Studio2階(予定)で実施する交流サロンの運営に参画し、高齢者と交流する 2)高齢者との交流、特定高齢者の軌跡や想いを記録する 上記の内容に、十分な成果が認められた場合、単位を認定する。	小林　英夫	2	【対象】 1～4年次 【募集人数】 20名程度	参加希望者は下記の事前説明会に参加し、参加申請書を提出する。 希望者多数の場合は、参加申請書とこれまでの学修状況により選抜を行い、4月16日までに結果を通知する。 事前説明会に不参加の者は原則として参加を認めない。 事前説明会:4月10日(木)5時限(16時20分～)　@T-Studio 2階 尚、実際の活動は4月17日(木)より開始する。
5	競技プログラミング入門	ICT	AtCoder を利用した競技プログラミングによって、本質的な論理思考力とコーディングスキルを向上させる。「入門」では、基礎的な入出力のコーディングができる学生を対象に、競技プログラミングの導入を行う。 競技プログラミングの成果は、情報系企業の採用・新人研修で利用が拡大している。単にプログラミング言語を学ぶだけでは、意味のあるプログラムを書くことはできない。本プログラムでは、学生に、社会的に評価されるプログラミング能力を身につけさせる。学生は、毎週一度、問題の解法を持ち寄って共有する。 ある程度の言語知識を必要とするため、原則として、プログラミング入門、Web プログラミング入門、プログラミング言語のいずれかの単位取得者を対象とする。ただし、面談などによって同等以上のプログラミングスキルを習得していると認められるものの履修を認める。	【認定基準】 合計 42 時間以上の学修時間をかけた上で、科目単位認定締切日の直近1ヶ月のいずれかの時点で、以下の基準のいずれかを満たすこと。 1) AtCoder のレーティングで 100 以上 2) 上記基準と同等の客観的成果(AtCoder 模試など)	出原　至道	2	【対象】 2～4年次 (ただし1年生の履修を例外的に認める場合がある) 【募集人数】 最大20名	説明会・ガイダンス・スキル面談 4月24日(木) 18:00 - 19:30　552教室(予定) 受講希望者は、コンピュータを持参すること。原則として、説明会に参加していないものの受講を認めない。受講許可者の時間割によっては、5月7日以降、講義のない別時間で開催する可能性がある。

令和7(2025)年度アクティブ・ラーニングプログラム一覧(春学期開始)

2025年4月22日
教務課

活動学期:春学期

No.	プログラム名	カテゴリ	プログラムの概要	単位認定基準	担当教員	認定単位数	対象・募集人数	プログラムへの参加方法
6	高難度中国語文等の輪読I	中国語能力向上・中国理解	中国語能力検定には世界規模のものとして漢語水平考試(中国語発音はHanyu Shuiping Kaoshi、その頭文字をとりHSKと呼称)が存在する。このHSK試験は中華人民共和国の教育部(日本の文部科学省に相当)の管下にある中華人民共和国国家漢語国際推広領導小組弁公室(略称は国家漢弁)が実施しており、世界最大規模を誇る。このうち最高難度である6級(最低難度は1級)長文読解問題は特に難問として知られる。 そこで本プログラムでは、中国のパワーエリートむけ経済誌の時事解説記事や古典中国語(いわゆる漢文)の長文読解を輪読形式で実施していく。輪読とは、学生一人一人が輪転して読解し解釈を発表した上で互いに解釈の相違を討論する形式のアクティブ・ラーニングである。今次プログラム参加学生は、課題の高難度中国語文について事前予習として日本語翻訳および注釈付与を試み、当日に予習成果の発表を行い、参加学生による相互討論を経た上で、列席の教員が最終添削を行う。	【認定基準】 非常に読解困難な中国語文について、世界最大規模の中中辞典(中国語を中国語で解説する辞典)や関連する資料を利用し読解を試みる。2021年秋学期・2022年度・2023年度では、学生は5行につき10時間(600分)ほどの予習を必要とした。発表につき60分、また事前学修につき600分、事後学修につき30分、合計で690分の学修を15回にわたって実施し、合計10350分(172時間30分)の学修を目指す。テキストの難度は教員が自負するものではあるが、事前学修は学生の個人的な努力によるものなので、正課1回90分から換算し2単位を付与したい。	水盛　涼一 バートル	2	【対象】 2～4年次 【募集人数】 5名程度	参加希望者は事前に水盛(mizumori-r@tama.ac.jp)へご連絡ください。毎週火曜日4限時間帯に実施予定で、初回はC棟3階教育サポート室(図書館むかい)でガイダンスを行う予定です。もともと少人数を予定しており、参加者の希望および担当講師時間割の勘案によって時間帯を変更する可能性があります。
7	社会工学研究会インターゼミ Ⅰ(春学期)	その他	社会工学研究会(インターゼミ)とは、本学寺島実郎学長が直接指導にあたる研究会であり、学部(経営情報学部・グローバルスタディーズ学部)および大学院(経営情報学研究科)の垣根を越えたゼミ活動をおこなう。なおインターゼミは2年次以上学生につき履修可能科目として設定されているが、学生の成長という要素にかんがみ、特別に1年次学生へのアクティブラーニング実践科目として履修を可能とする(2021年以前に回帰するものである)。 さて、インターゼミは九段サテライトキャンパス(〒102-0073 東京都千代田区九段北1-9-17寺島文庫ビル3階)で土曜日5限時間帯(16時20分から17時50分、ただし15時45分ごろの参集が望まれる)に開催される。このうち前半の第1部では参加学生による情報共有と学長による週間講話が、後半の第2部では上記「担当教員」のほかグローバルスタディーズ学部教員が加わり学生とともに多摩学、アジアダイナミズム、サービスエンターテインメント、デジタルトランスフォーメーションの各班で研究活動を行う。また、第2部は各班学生の主体的な学修の成果発表の場であり、およそ先行研究や各種資料による文献研究(literature study)、また現地に出向いて対象に直接ふれる田野調査(field work)といった課外活動に基づく。	【認定基準】 文献研究と田野調査はともに困難な内容である。少なくとも水盛の参加した2017年以来、学生は学期末の担当部分の論文作成について10時間(600分)ほどの予習を必要とした。その他に上記の班内各週発表でそれぞれ事前・課内・事後の3種に90分ずつの学修を見込む。ここで合計3300分(55時間)の学修を目指す。インターゼミの難度は教員が自負するものではあるが、事前学修は学生の個人的な努力によるものなので、正課1回90分から換算し2単位を付与したい。	金　美徳 久保田　貴文 越田　辰宏 杉田　文章 髙橋　彰 バートル 平石　隆司 水盛　涼一 宮本　純至	2	【対象】 1年次 【募集人数】 5名程度	社会工学研究会(インターゼミ)は学年暦に従い実施されるが、4月12日(土)は休講で、初回は4月19日(土)となる。参加希望者はこの4月19日への参加が必須となるが、内容や開催地(九段サテライトキャンパス)の特性上、事前に多摩キャンパスでの面談が必要となる。4月17日(木)午前中までにアクティブラーニングプログラム担当者である水盛(mizumori-r@tama.ac.jp)へ連絡いただければ、昼休みや放課後にC棟3階の教育サポート室(図書館むかい)で対応できるだろう。
8	社会調査のための基礎知識習得	調査研究	本講は社会調査士認定科目のA群に該当し，社会調査における基本的な内容について習得を目指すものである。 この講義は，社会調査の目的と方法についての基礎的な知識の習得を目指して実施するものである.調査の必要性やアプローチの方法，標本抽出法などのさまざまなデータ収集法について，その特性を学び，適切な調査設計を行えるようにする。 PBL型で調査の重要性や調査方法の特性について理解する。	【認定基準】 毎回の講義での課題提出が10回，かつ最終課題作成・提出。	加藤　みずき	2	【対象】 2年次 【募集人数】 10名程度	参加希望者は，4月10日(木)3限に231教室にて開講予定の説明会・初回講義に出席し，説明を聞いた上で参加するかを決定すること。 なお，社会調査士資格申請のために必要な単位取得を目指すための科目という位置づけのため，資格取得を検討している学生のみを参加対象とする。